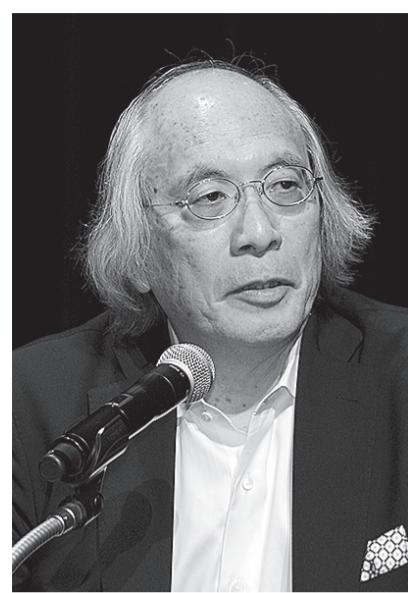


再生・成長企業分析 ～新興市場の今後の展望～



スガシタパートナーズ
代表
菅下 清廣氏

た。
今の相場の
20年間に一度の長期上昇局面

株価の行方を予想すると、普通は企業業績の動向や日銀の金融政策などを基に考る。しかし、そのような情報はすでに株価に織り込まれている。重要なのは相場の波動だ。

相場の時間の波動には、3年、7年、20年、50、60年という4つのサイクルがある。日経平均株価を見ると、1982年から7年続いたバブル相場が89年12月に大天井を打ち、20年後の2009年3月に底入れし

た。
今の相場の
20年間に一度の長期上昇局面

株価の行方を予想すると、普通は企業業績の動向や日銀の金融政策などを基に考る。しかし、そのような情報はすでに株価に織り込まれている。重要なのは相場の波動だ。

相場の時間の波動には、3年、7年、20年、50、60年とい



再生企業の魅力と展望

特別講演

強み生かし企業を育てる

アベノミクス効果で株式市場や企業業績が上昇基調にある。今こそ設備や事業への投資を戦略的に拡大し、成長を本格軌道に乗せたいところだ。そこで先月開催した日経産業新聞フォーラム2014「再生・成長企業分析—新興市場の今後の展望」では、企業に今求められる成長戦略について、有識者の見解や豊富な成功事例から探った。



元イー・アクセス社長
千本 偉生氏

0.1%の可能性あれば諦めるな

日本電信電話公社(現NTT)に18年在籍後、42歳で当時京セラ社長の稻盛和夫の指導の下に第二電電(現KDDI)を起業した。30万人の巨大独占企業にわずか数人のベンチャーガが対抗するのは無謀だとされは劇的に下がり、10年で第

二電電は急成長を遂げた。こうしたベンチャー精神を日本の若い世代に伝えるため、54歳で慶應義塾大学教授に転身した。20世紀も終わりに近づいたころ、インターネット革命が勃興した。世の中が大きく変わることはビジネスチャンス。

幸い助氏から直接掛けられた言葉だ。「小さい企業が生き残る条件は一つ、決して諦めないこと」。0・1 終わりに近づいたころ、インターネット革命が勃興した。世の中が大きく変わるときはビジネスチャンス。

自分でも考え得る最高の経営

チードを作る

ことでも大事

人の力に頼つ

てはいけない。

こうしたことを踏まえ、企業を育て日本の再生に貢献してもらいたい。

イノベーションと企業創造

基調講演



代表取締役COO
(最高執行責任者)
瀧谷 知之氏

ダイナミックに生まれ変わる第一の創業期

当社(旧社名イー・キヤ
シュ)は今年3月の第三

再構築して新たなスタート

を切った。我々はこれを第

一の創業期と位置づけ、7

月には社名を「バス」に変

更。新しく始めた戦略コン

サルティング事業を柱に

ループ全体の成長を促し

長期的な競争優位を築いて

いるからである。コンサ

ルティングにおいては、真

行い、成長するグループ企

業としてスタートした当

テルスが親会社となり、東

南アジアで成功している

「キューンホテルズ」の第

一回りの新規出店が決

定された。これは、今後

年6月にニューヨークで人

気のカッピングキ店「マグ

ノリアベーカリー」を表參

道にオープン。初日から大

盛況となり、話題を呼んで

いる。こうした事業の多角

化により、5、6年後には

グループ全体で1兆50億円

規模の売り上げを目指す

数十億円の利益を出して

きたい。

飲食事業においては、今

の売り上げと顧客満足度に

おいて業界No.1を目指す。

BPO事業では今年、同

社の2社との合併・買収・M

&A)を実施。16年度まで

の中期経営計画における売

り上げ目標と利益目標の前

提唱した。今年11月の決算発表

では、新中期経営計画を発

表する予定なので、ご期待

いただきたい。

業を増やしていく考え方だ。

これにより、自社の既存ビ

ジネスである決済代理事業

とのシナジーが生まれるほ

ど、新たな事業ドメインの

構築が可能となる。

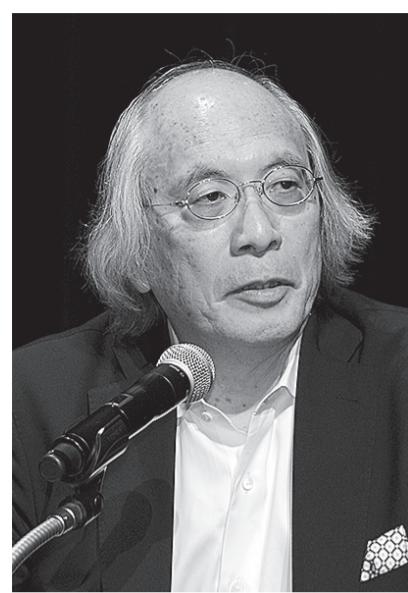
バス(PATH)とほ方

針」や「進路」を表す。第

二の創業期から成長期へと

停滞してしまっている会社

で、ついで、運営していただければ幸いである。



スガシタパートナーズ
代表
菅下 清廣氏

た。
今の相場の
20年間に一度の長期上昇局面

株価の行方を予想すると、普通は企業業績の動向や日銀の金融政策などを基に考る。しかし、そのような情報はすでに株価に織り込まれている。重要なのは相場の波動だ。

相場の時間の波動には、3年、7年、20年、50、60年とい

た。
今の相場の
20年間に一度の長期上昇局面

株価の行方を予想すると、普通は企業業績の動向や日銀の金融政策などを基に考る。しかし、そのような情報はすでに株価に織り込まれている。重要なのは相場の波動だ。

相場の時間の波動には、3年、7年、20年、50、60年とい